

会 議 録

1 会議名

平成27年度 第3回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 諮問事項について（公開）

【諮問第13号】新市建設計画の変更について（答申・通知）

(2) 平成27年度和田区地域協議会委員視察研修について（公開）

3 開催日時

平成27年11月12日（木） 午後6時28分から午後6時55分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：横田直幸（会長）、水澤俊彦（副会長）、有坂正平、高島信雄

橋本 勲、前川正治、宮下浩二、八木文夫、横田晃一

・事務局：南部まちづくりセンター 橋本センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容

【榎島係長】

・9名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は横田会長が務めることを報告

【横田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：有坂委員に依頼

次第2「議題等の確認」について事務局に説明を求める。

【橋本センター長】

資料により説明

【横田会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

続いて、報告（１）「諮問事項について」事務局に説明を求める。

【橋本センター長】

資料No.1により説明

【横田会長】

質疑を求めるがなし。

続いて、意見交換（１）「平成２７年度和田区地域協議会委員視察研修について」、事務局に説明を求める。

【榎島係長】

板倉と飯山への視察研修について概要報告

- ・ 10月21日水曜日、快晴、板倉おもてなしの会、関田峠経由で飯山市の信州いいやま観光局を訪問
(板倉おもてなしの会)
- ・ 会員14名、市民大学受講生により発足、板倉区内の13団体と意見交換や勉強会実施
- ・ 平成24年度～26年度、跡見学園女子大学（東京都文京区）の学生との意見交換、観光マップ作成
- ・ 板倉区のそば関連団体をまとめ、そばマップ作成
- ・ 観光ガイドの養成と区内13団体との連携による観光ボランティア体制の構築等を行い、飯山市での研修等により22名のガイドを養成
- ・ 女子大生から、ふしんと親鸞のラブロマンスストーリー制作の提案があった。
- ・ 都会の人が狼煙や稲刈り等を楽しみに来訪し、地元の人たちとの感覚が違うことを実感し、外の風を入れる必要性を感じた。
- ・ 和田区に、上越妙高駅で板倉区のPR依頼あり。

(信州いいやま観光局)

- ・道の駅 花の駅・千曲川と、飯山駅観光交流センターの現地視察
- ・スキー人口の減少により、スキー産業依存から通年型観光としてグリーンツーリズムを推進
- ・平成9年、拠点のなべくら高原森の家を開設、農業体験やそば打ち体験等をはじめた。その後、鍋倉山登山道の整備により注目される。
- ・独自の着地型旅行商品（受入側による商品企画）の開発とホームページによる販売。北陸新幹線飯山駅から地域を周遊するツアーが中心
- ・県外出身者の積極的な採用とその視点による、飯山の地域資源を生かした311の旅行商品を開発
- ・志賀高原や野沢温泉等、知名度が高い周辺観光地との連携（「信越自然郷」）
- ・県との東南アジア販促活動、英語のホームページにより外国人を誘客
- ・開業後の新幹線新駅の観光案内所利用者数、日本人8倍、外国人10倍。平日150人、繁忙期500人位の利用

【横田会長】

人材育成をテーマとした情報交換が視察目的であった。

視察参加者に感想を求める。

【高島委員】

板倉の人の前向きに取り組む姿、エネルギーは何処から出てくるのかと思う。我々は新幹線頼りの待ち、板倉は攻めであり、あれでないと地域の若い人たちがついてくるような活力が出ない。

飯山では、外から来た職員の一生懸命に取り組む姿を見た。違った視点を長所として上手に活かしている。特に信越トレイルは、歩いてみるといい所で、都会から来られる人たちは新鮮味があるのだろうと思った。

【橋本委員】

板倉にはいろいろな観光資源があり、結果はこれからだと思うが、いろいろ考えさせられた。

飯山は、県外出身者が地元では気付かない発想に基づいて活動し成功しているようで、参考になるのではないかと強く感じた。

【八木委員】

板倉は歴史や文化、自然も素晴らしいと改めて感じた。

おもてなしの会は、板倉町のときから活動を継承されてきたと思うが、非常に参考になった。

新幹線開通に期待したが、催しをやっても参加者が減っているという話である。

イベントは板倉区だけでなく、上越市を巻き込んでやるのも必要であると思う。

また、要望してきたにもかかわらず、板倉は観光バスがすれ違うことができる道路が少なく、これも大きな原因であるという話であった。

飯山駅はコンパクトでよくできているが、上越妙高駅と一緒に、駅周辺はこれからという感じがした。

北陸新幹線の建設促進は、当初飯山が一生懸命で、そこに和田が参加させてもらって取り組んできた経緯がある。我々とともに発展を期待している。

【水澤副会長】

信州いいやま観光局のメンバーの、特に地元以外からの若い人たちが一生懸命に取り組んでいる姿が参考になると思った。若い人たち、外からの視点で、これからどうしていこうかという気持ちが凄く伝わった。

上越市ももう少し小回りが利く組織を作っていければいいかなと感じた。

【横田会長】

板倉については、一生懸命にやっている。また、光ヶ原がもっと知られ、上越を展望できるようなロケーションといったものがこれからもっと評価されるのではないかという感じがした。

飯山については、市が第3セクターを統合し、一般財団法人にして旅行業の免許も取って、商品開発も一生懸命しているという点で大変凄いと感じた。外国人客は、大きなバスでまとまって来るばかりではなく、小グループで観光地に入るようになって来た。これはネットの機能をフルに使っているためと感じた。

続いて、事務局に事務連絡を求める。

【橋本センター長】

- ・ 次回の協議会は日程調整後、追って連絡予定。

- ・協議会閉会後は、大和倶楽部との懇談会を実施。午後8時30分終了予定。

【横田会長】

事務局からの説明に対して質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。